

進行・再発 胃癌

ニボルマブ + SOX療法レジメン

HER2陰性の治癒切除不能な進行/再発 胃癌

G-37

< 21日間隔 (PDまで) >

治療日		第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5~14日目	第15日目	第16~21日目	第22日目	
治療内容										
検査	採血	○							○	
	胸部X線	○							○	
診療	副作用の問診	○							○	
	検査結果	○							○	
治療中止基準	SOX ①WBC 3000未満 ②好中球 1500未満 ③血小板 10万未満 ④AST, ALT>2.5×ULN (肝転移は×5) ⑤Cre>1.2×ULN ⑥発熱・CRP上昇、PS2以上 ⑦G2以上の下痢、口内炎、手足症候群	ニボルマブ ①G2以上の肺臓炎 ②副腎クリーゼの疑い ③G3以上の皮膚障害・神経障害 ④AST、ALT>3×ULN ⑤T-Bil>1.5×ULN ⑥Cr>1.5×ULN ⑦G2以上の下痢 ⑧自己免疫疾患の発症疑い					※ニボルマブと化学療法の投与中止はそれぞれ分けて決定する。どちらか一方が中止となった際に、もう一方の投与継続は許容される。			
内服	TS-1初回基準量 1. 25m2未満：40mg/回 1. 25m2以上1.5m2未満：50mg/回 1. 5m2以上：60mg/回 朝夕食後2× 【14日間投与7日間休薬】	↓ 夕食後	↓ 朝・ 夕食後	↓ 朝・ 夕食後	↓ 朝・ 夕食後	↓ 朝・ 夕食後	↓ 朝食後	休	↓ 夕食後	
点滴	① 生食 50mL 点滴静注【全開】	○							○	
	② 生食100mL +オプジーボ 360mg 点滴静注【30分】 全量100mlとする。 フィルター付きルートで	○							○	
	③ 生食 50mL 点滴静注【全開】	○							○	
	④ 生食100mL +アロキシ0.75mg +デキサート 3.3mg×2A 点滴静注【30分】	○							○	
	⑤ 5%ブドウ糖500mL +オキサリプラチン (130mg/m ²) 点滴静注【2時間】	○							○	
	⑥ 生食50mL ルートフラッシュ用 (全開)	○							○	

看護のPoint!!

オキサリプラチンによる過敏症症状に注意。呼吸困難感、かゆみ、発赤、皮疹など。

主治医に報告し、次回からファミチジン注とポララミン注の前投与を考慮する。(7αEJ錠と材料E錠でも可能)

オキサリプラチンによって末梢神経障害が起こりやすい。まずは冷たいものの接触を避ける。

末梢からオキサリプラチン投与時、血管痛あるかも。温めてあげたり投与時間をゆっくりしてあげる。

TS-1で口内炎、下痢の可能性もある。持参薬にワーファリンがあれば主治医に報告 (TS-1との相互作用あり)

免疫調節薬があるので、免疫関連の副作用が起こる

Infusion reactionに注意

主な副作用は皮膚障害、甲状腺機能低下、下痢、間質性肺炎

下痢の時はステロイドを使用 (止痢剤ではない。大腸炎のため)

SOXの減量時の投与量（臨床試験ATTRACTION-4）

減量レベル	オキサリプラチン (mg/m ²)	S-1 (mg/回)		
		<1.25m ²	≥1.25m ² ~<1.5m ²	≥1.5m ²
初回投与量	130	40	50	60
1段階減量	100	25	40	50
2段階減量	75	20	25	40
3段階減量	50	投与中止		
4段階減量	投与中止			

SOXの減量基準（臨床試験ATTRACTION-4）

有害事象		次回投与量	
項目	基準	オキサリプラチン	S-1
血小板減少	(L-OHP:130/m ² の場合のみ) 投与予定日から7日以内に≥100,000/mm ³ を満たさない場合	1段階減量	—
	投与予定日から7日以内に≥75,000/mm ³ (Grade≤1) を満たさない場合		
	(L-OHP:50/m ² の場合のみ) 投与予定日から7日以内に≥75,000/mm ³ を満たさない場合	—	1段階減量
	<25,000/mm ³ (Grade≤4)	1段階減量	1段階減量
好中球減少	<500/mm ³ (Grade≤4)	1段階減量	1段階減量
発熱性好中球減少症	好中球<1,000/mm ³ かつ38度以上の発熱	1段階減量	1段階減量
下痢、口内炎、手足症候群	Grade≥3	1段階減量	1段階減量
アレルギー反応/ L-OHPによる過敏症	Grade≥3	投与中止	—
末梢神経障害	Grade2	1段階減量	—
	Grade3	休薬 [*]	—
	Grade4	投与中止	—

※Grade2以下に回復後、1段階減量して再開。

S-1の減量基準（臨床試験ATTRACTION-4）

投与期間中に休薬基準のいずれかに抵触した場合は、当該基準を満たさなくなるまで休薬。再開後の投与期間はもとの投与期間まで(day15朝まで)

項目	休薬基準
好中球数	1,000/mm ³ 未満 (Grade3以上)
血小板数	50,000/mm ³ 未満 (Grade3以上)
AST、ALT	施設基準値上限の2.5倍を超える (肝転移ある場合、5倍を超える)
血清クレアチニン	施設基準値上限の1.2倍を超える
感染	感染を疑う38°C以上の発熱
下痢、口内炎、手足症候群	Grade2以上

